

# 編 修 趣 意 書

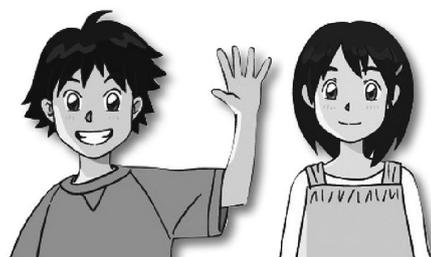
(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-115	中学校	外国語	英語	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	英語 706	BLUE SKY English Course 1		

## 1

### 編修の基本方針

今後、期待される社会の姿(Society5.0)の実現に向けて、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決したり、膨大な情報を見極めながら複雑な状況変化の中で、目的に応じて考えを再構築したりするなど、持続可能な社会の担い手となるための資質・能力を培う観点から、以下の3点を基本方針として位置づけました。



#### 1 生徒が主体的に関わりながら学びを進める

- (1)Unitの最初に全体の目標を、PartにはそのPartの目標を明示することで、生徒にも学習到達目標がはっきりわかり、何ができるようになるかを意識しながら、主体的に学習を進めることができるようにする。
- (2)ペアワークやグループワークなどを通して、主体的・対話的な学習が進められるようにする。

#### 2 コミュニケーションを図るための基礎的な資質・能力を身に付ける

- (1)Unitを構成するPartには、取り扱う語彙や表現などを明示し、身に付けるべき基礎的な学習内容が一目でわかるようにする。
- (2)言語材料への慣れ親しみ、知識・技能の習熟、活用・定着という学習過程を踏みながら基礎的な資質・能力を身に付けられるよう紙面構成を工夫する。

#### 3 知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育成する

- (1)生徒の知的な好奇心に応える題材を多く扱い、生徒の思考力・判断力・表現力を養えるようにする。
- (2)コミュニケーションの目的・状況・場面を意識して4技能5領域を活用し、生徒自身が課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断し、行動する力が養えるようにする。

# 1 生徒が主体的に関わりながら学びを進める

- 学習の進めやすさを考慮して、各Partは見開きで構成しています。
- UnitとPartの最初には学習到達目標(Unitの目標、Partの目標)を明示し、生徒自身が何が出来るようになるかを意識しながら、自律的に学習を進められるようにしました。
- 各Partで重要なキーセンテンスをTargetとして示し、身に付ける言語材料を明確にしました。
- ペアワークやグループワークなどを通して、主体的・対話的な学習が進められるようにしました。

**Unitの目標**

**Partの目標**

**Partのキーセンテンス**

Unit 1 英語で話そう

Unit 1 の目標

- 挨拶の場面を表現することが出来る。
- 簡単なことについて話せるようになる。

Part 1 自己紹介をしよう。

Get Ready

ペル先生が自己紹介をしています。

I'm Moana Bell.  
I'm from New Zealand.  
I'm good at dancing.

Words

- good
- morning
- everyone
- I
- am
- I'm = I am
- from
- New Zealand
- at
- be good at
- dance (dancing)
- USA = United States of America
- UK = United Kingdom
- sing (singing)
- hi
- the

Practice

別にならって、それぞれの人物になつたつもりで、自己紹介をしましょう。

例 Hi, I'm Hana. I'm from Japan.  
I'm good at playing the piano.

名前 Hana Bruno Ming

国 Japan Brazil China

得意なこと playing the piano swimming science

Target 1

I am Moana Bell.

Use

別にならって、クラスで自己紹介をしましょう。

例 Hi, I'm Suzuki Ken.  
I'm from Higashi Elementary School.  
I'm good at math.

Words

- elementary school

(Unit 1 p.22-23)

ペアワーク、グループワーク  
などで、自分のことを表現する

# 2 コミュニケーションを図るための基礎的な資質・能力を身に付ける

- 各PartはGet Ready, Practice, Useで構成され、言語材料への慣れ親しみ、知識・技能の習熟、活用・定着という細かい学習過程を踏んで基礎的な知識・技能が身に付くよう配慮しました。
- 新出語を欄外にWordsとして示し、学習の参考にできるようにしました。特に、中学校までで身に付けておきたいCEFR-JのA1レベルの語彙は太字で示しました。

**Unitの目標**

**Partの目標**

**新出語**

**音声に慣れ親しみます。**

**絵を使って練習することにより、知識・技能の習熟を図ります。**

**自分のことを表現することにより、知識・技能の活用・定着を図ります。**

Unit 2 学校で

Unit 2 の目標

- 身の回りのものについて説明することが出来る。
- 簡単な疑問文について答えることが出来る。
- 人を紹介することができる。

Part 1 身の回りのものについて説明しよう。

Get Ready

エミリーが、アイコの持ち物についてお話をしています。

Emily: Is this a lollipop?  
Aiko: No, it isn't. It's a pen.  
Emily: Wow. It's cute!

Emily: I like this bag.  
Aiko: No, it isn't. It's a fox.

Emily: That's cool!

Notes

単語と単語の間に定冠詞theがついて、the book, the pen, the bag, the fox, the bag, the fox, the bag, the fox. 定冠詞theは、名詞の前に必ずついて、その名詞を特定することを示します。

Practice

別にならって、それぞれの絵について、たずね合いましょう。

例 A: Is this a book?  
B: No.

1. cabbage / lettuce 2. guitar / violin 3. dog / wild boar

Target 3

This is a lollipop.  
Is this a lollipop?  
—Yes, it is. / No, it is not. It is a pen.

Use

動物やキャラクターの絵をみて、内容についてたずね合いましょう。

例 A: Is this a dog?  
B: Yes, it is. / No, it isn't. It's a fox.

例 別にならって、自分のことについて話しましょう。

例 Is this a dog? Yes, it is.

文の頭はYes, NoのあとにはI am, I'mをつけて。

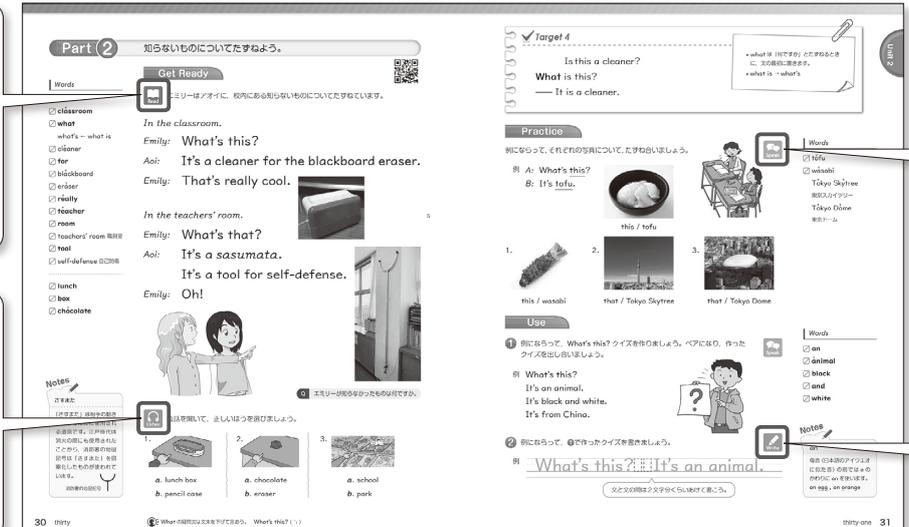
(Unit 2 p.28-29)

●「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「読むこと」「書くこと」の4技能5領域を示すマーク(   )を問題の横に表示し、身に付けるべき技能を意識しながら学習が進められるようにしました。

4技能5領域を示すマーク



Read  
(Read)



4技能5領域を示すマーク



Speak  
(Speak)

4技能5領域を示すマーク



Listen  
(Listen)

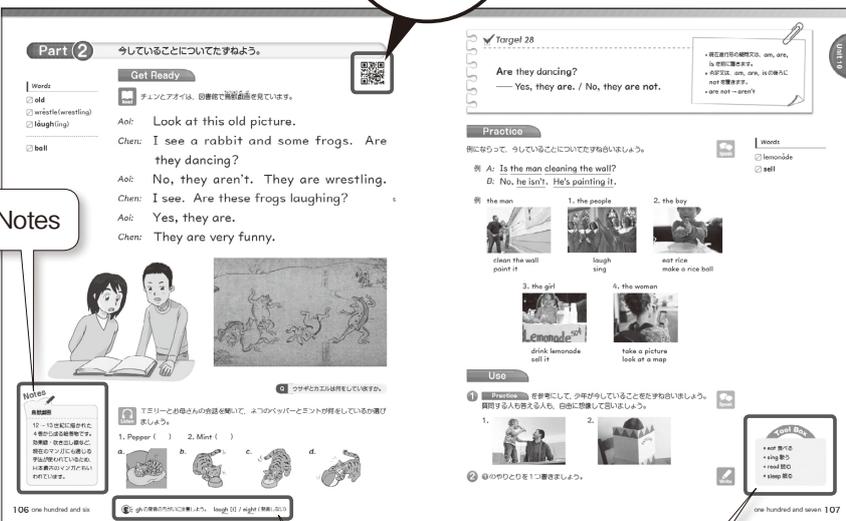
4技能5領域を示すマーク



Write  
(Write)

(Unit 2 p.30-31)

- 題材に関する付加情報などを紹介するコラムをNotesとして適宜設定し、さらに発展した学びへの興味づけができるようにしました。
- ICTの活用が有効な箇所にはQRコードを掲載し、学習の助けになる教材(音声など)を活用しながら臨場感を持って学習が進められるようにしました。
- 音読のポイントをページ下欄に掲載し、話すときはもちろん、聞き取るときの参考にもなるように配慮しました。
- 表現活動の際に必要な語彙をTool Boxにまとめ、生徒が自分の言葉で表現する際の手助けとなるようにしました。
- 他教科で学んだ題材や生活用品など生徒に馴染みのある題材を取り上げ、生徒が親しみを持って、基礎的・基本的な語彙や表現を身に付けられるように工夫しました。
- Unit末のTargetのまとめでは、Unitで学んだ表現を振り返り、理解の定着を図ります。

(Unit 10 p.106-107)

音読のポイント

Tool Box

▼ Targetのまとめ

**Targetのまとめ ① be動詞**

□ (I・他)「です」の意味を表します。

主語	I	you	he/she/it	is	am	are	isn't/aren't
肯定文	I am Sara.	You are Emily.	He is Chen.	This is a pencil case.			
否定文	I am not thirteen years old.	I am not thirteen years old.					one not → aren't is not → isn't
疑問文	You are a junior high school student.	Are you a junior high school student? (?)					—Yes, I am. / No, I am not. [I'm not].

**Let's Try**

① ペアになって、相手の好きなことと活動についてたずねましょう。

例 A: Are you a baseball fan?  
B: Yes, I am.  
A: Are you a member of the baseball team?  
B: No, I'm not.

② ①でわかったこととをヒント、相手を紹介しましょう。

例 Yuta is a baseball fan.  
He isn't a member of the baseball team.

(Unit 2 p.35)

# 3 知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育成する

- 小学校で音声を通して身に付けた語彙・表現については、文字を通して定着が図れるように、取り上げる題材に配慮しました。
- 場面・状況に応じて即興で対応する場面を多く取り入れ、生徒の**思考力・判断力・表現力**を養えるようにしました。
- **Unit9, 10**末に設定した**Read & Think**では、少し長めの英文を読み、内容を大まかにつかんだり、詳しく読んだりする力を養えるようにしました。
- 各**Unit**末の**Let's Talk**では、身近な場面の中で既習の表現を活用して必要な情報を伝え合うなどの実践的なコミュニケーションを通して表現力を養えるようにしました。
- **Unit4, 8, 10**末に設定した**Let's Listen**では、身近な場面から必要な情報を聞き取り、適切に判断し活用できる力を養えるようにしました。
- 巻末の**Let's Read**では、物語や論説文などの読み物を読み、内容や構成・表現について生徒が自分で思考し、判断できるようにしました。

## ▼ Read & Think

(Unit 10 p.110-111)

## ▼ Let's Talk

(Unit 6 p.72)

## ▼ Let's Listen

(Unit 4 p.51)

## ▼ Let's Read

(巻末 p.120-121)

- 学期末の**Project**では、複数の**Unit**で学んだことを生かして**4技能5領域**を統合的に活用することを通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断し、行動する力が養えるようにしました。

## ▼ Project

(p.53-55)

## 2 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	▶英語の学習を通して、世界の文化、言語などに関する幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培えるようにしました。	p.36～41など
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	▶相手の好きなものや得意なことなどを知り、個人の価値を尊重する態度を養えるようにしました。	p.56～61など
	▶サクランボの収穫という題材などを通して、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにしました。	p.66～71など
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	▶ペアワークやグループワークなどの協働学習を通して、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました。	p.53～55, 91～93, 115～117など
第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	▶動物を擬人化した鳥獣戯画の題材や動物の行動を問う問題などを通して、自然や動物に対する関心を促し、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。	p.106～109など
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	▶冬休みの家族旅行の場面などを通して日本の伝統と文化に触れ、それらを尊重する態度を養えるようにしました。	p.94～99など
	▶日本と外国の学校での習慣の違いや共通点などを知ることで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。	p.74～79など

## 3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

### ▶▶▶ 特別支援教育・ユニバーサルデザインへの対応

- 特別支援教育の専門家の監修の下、まぎらわしい記号の使い方をしないなど、すべての生徒が支障なく学習できるよう配慮しました。また、誰もが識字しやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントも採用しました。
- 教科書全体を温かみのあるやさしい色使いでシンプルなデザインにし、誰にでも必要な情報が伝わるよう心がけました。これにより、メディア・ユニバーサル・デザイン協会(MUD)による認証を申請しています。




# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-115	中学校	外国語	英語	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	英語 706	BLUE SKY English Course 1		

## 1 編修上特に意を用いた点や特色

### 1 基礎的な知識・技能を確実に習得できるよう、 スモールステップによる学習場面を設定する

- 教師にも生徒にも授業の流れがイメージできる紙面構成にしました。
- コミュニケーション活動の基礎となる知識・技能が、十分親しみながら、細かい学習の過程を経て、確実に身に付くよう配慮しました。

**Get Ready** 具体的な場面を通して、語句、表現及び音声に慣れ親しみます。

**Practice** 絵を使って新出表現を練習することにより、知識・技能の習熟を図ります。

**Use** ペアワークやグループワークなどで、自分のことを表現することにより、言語材料の活用・定着を図ります。

### 2 生徒が臨場感を持ちながら、 主体的に学習を進められるようにする

- 生徒が自身の問題として主体的に学習を進められるよう、身近な題材や興味深い題材の選定、場面の設定を考慮しました。
- グローバル化する社会の中で英語話者の広がりや多様性を実感できるように、様々な国のキャラクターを設定し、生徒が実際の言語の使用場面を想起しながら臨場感を持って学習が進められるように工夫しました。

Emily Hill (エミリー・ヒル)  アメリカ	Chen Lee (チェン・リー)  シンガポール	Moana Bell (モアナ・ベル)  ニューージーランド	Nakata Sora (中田空)  日本	Sato Aoi (佐藤あおい)  日本
--	---	--	---	--

### 3 バランスよく、4技能5領域にわたる コミュニケーション能力の基礎が身に付くようにする

- 聞く、話す(やり取り)、話す(発表)、読む、書くの様々な場面において、生徒が既習の言語材料を活用する機会を設け、状況に応じて求められる技能を身に付けられるようにしました。
- 目的や場所、状況などに応じて、様々な話題に関する情報などを推測しながら理解したり、表現したり、伝え合ったりできる力を養えるようにしました。

## 1 教科書の構成

- 10のUnitを中心に、各学期の配分を以下のように設定しています。

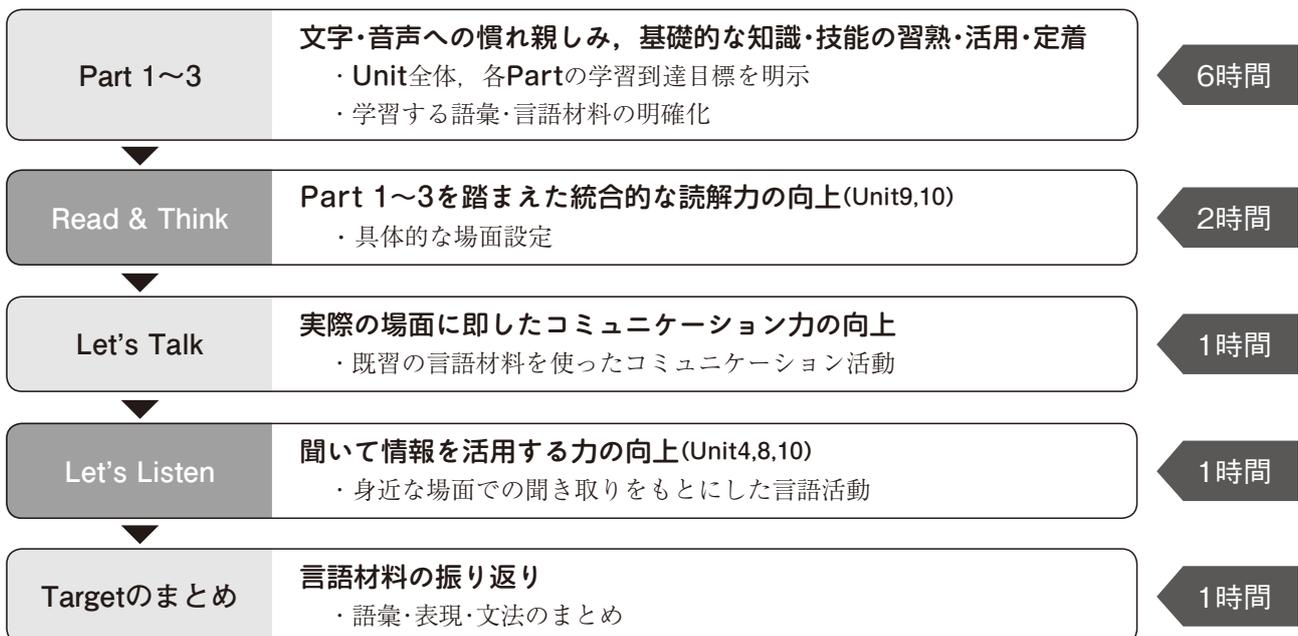
( )内は配當時数

1学期 (38)	Let's Start (7)	Unit 1 (4)	Unit 2 (8)	Unit 3 (8)	Unit 4 (9)	Project ① (2)
2学期 (37)	Unit 5 (9)	Unit 6 (8)	Unit 7 (8)	Unit 8 (9)	Project ② (3)	
3学期 (28)	Unit 9 (10)	Unit 10 (11)	Project ③ (3)	Let's Read ① (2)	Let's Read ② (2)	

※2学期制では、Unit 6までが前期、Unit 7以降が後期となります。

- 各学期の配當時数には余裕を持たせていますので、学級や生徒の実態に応じて柔軟に扱うことができます。
- 学期末にはProjectを設定し、4技能5領域の統合的な活用を図れるようにしています。また、ペアワークやグループワークなどの協働学習を通して、主体的・対話的な学習が進められるようにしています。
- 巻末にはCan-Doリストを掲載し、学習事項の振り返りと自己評価が行えるようにしています。

## 2 Unitの構成



- Unitは、Part 1～3、Read & Think、Let's Talk、Let's Listen、Targetのまとめで構成しており、各Partには見開き2時間と余裕を持たせて時間配当をしていますので、状況に応じて、繰り返し練習やデジタル教材などを使った追加の活動を行うこともできます。

※Unit 1のみPart 1～2の構成で、Targetのまとめはありません。

※Read & ThinkはUnit 9, 10、Let's ListenはUnit 4, 8, 10に設定しています。

## ◆教科書の観点別特色

観点	留意点	該当箇所
教育基本法 および 学習指導要領の 遵守	①教育基本法及び学習指導要領で示された目標を達成するため、次の基本方針の下、編修しました。 ・生徒が主体的に関わりながら学びを進める ・コミュニケーションを図るための基礎的な資質・能力を身に付ける ・知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育成する	全般
資質・能力の 育成、 Society5.0で 求められる 課題解決能力の 育成	①【知識・技能】紙面に <b>新出語</b> を <b>words</b> として、 <b>キーセンテンス</b> を <b>Target</b> として明示して、身に付ける学習内容が一目でわかるようにしました。 ②【知識・技能】細かいステップを踏んだ活動を通じて、 <b>基礎的な知識・技能</b> が養えるようにしました。 ③【思考力・判断力・表現力】各学期末の <b>Project</b> には、既習の言語材料を使って <b>場面や状況に応じて考え、判断し、表現する</b> 活動を設定しました。 ④【学びに向かう力】 <b>自国独自のものや異文化理解</b> などを取り上げて、生徒の <b>学習意欲</b> を高め、より <b>深い学び</b> へと導けるようにしました。	①p.23～24など ②Get Ready →Practice →Use ③p.53～55など ④p.30～31, 74～79
主体的・対話的で 深い学び アクティブ・ ラーニング	①ペアワークやグループワークなどによる <b>主体的・対話的な学習</b> が進められる教材を多く設定しました。 ②音声などを使った様々な活動を通して、 <b>主体的・対話的で深い学び</b> ができるよう配慮しました。 ③各学期末の <b>Project</b> では、場面や状況を考え自ら判断する問題を扱いました。	①Use, Project, Let's Talk ②QRコードなど ③p.53～55, 91～93, 115～117
学びの見通し・ 振り返り	①生徒が見通しを持って学習が進められるように、Unitの最初に <b>Unitの目標</b> 、各Partに <b>Partの目標</b> を明示しました。 ②Unitの学習を振り返ることができるように、Unitの最後に <b>Targetのまとめ</b> を設定しました。 ③1～3年生を通した目標を持って学習したり、振り返って自己評価したりできるように、巻末に <b>Can-Doリスト</b> を掲載しました。	①Unitの目標, Partの目標 ②p.35, 43など ③p.150
内容・配列・分量	①生徒の身近な場面から導入を図るなど、 <b>自然に英語に接する</b> ことができるよう配慮しました。 ② <b>時間内に授業を終えられる</b> ような題材・分量を設定しました。 ③小学校からの学習がスムーズにつながるように、『Let's Try!』『We Can!』を参考にして言語材料を構成・配列しました。	全般
コミュニケーション 活動	①生徒の身近な題材を使った <b>コミュニケーション活動</b> を通じて英語の学習ができるように配慮しました。 ②学期末の <b>Project</b> では、 <b>4技能5領域を統合する活動</b> を設定し、コミュニケーション活動を図れるようにしました。	①Use, Let's Talk ②p.53～55, 91～93, 115～117
4技能5領域 への対応	①「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「読むこと」「書くこと」の <b>4技能5領域</b> の内容を各Unit内で適切に取り上げ、問題の横に、該当する4技能5領域を <b>マーク</b> で表示して、身に付ける知識・技能を明確にしました。	全般
評価への対応	①Unit末の <b>Targetのまとめ</b> では、キーセンテンスの定着度を評価することができます。 ②巻末の <b>Can-Doリスト</b> では、生徒自身が学習を振り返ることで、自己評価ができるようにしました。	①p.35, 43など ②p.150
他教科との関連	①(国語)イソップ童話を扱いました。 ②(社会)世界の国の習慣やニュースなどを扱いました。 ③(数学)順序よく論理的に考える読み物を扱いました。 ④(理科)生きものの行動について扱いました。 ⑤(音楽)英語の歌を扱いました。 ⑥(美術)トリックアートを扱いました。 ⑦(家庭)料理の場面を扱いました。 ⑧(道徳)他国の文化・習慣について理解し、日本人としての自覚を持てる題材を扱いました。	①p.118～119 ②p.36～41, 113 ③p.120～121 ④p.109 Use ⑤p.122～123 ⑥p.44～47 ⑦p.72 ⑧p.36～41, 82～87

観点	留意点	該当箇所
小中の連携	<p>①巻頭には小学校の復習<b>Let's Start</b>を設定し、小学校からの学習がスムーズにつながるよう配慮しました。</p> <p>②小学校の『Let's Try!』『We Can!』で学習した語彙・表現をもとに<b>スパイラルな学習</b>ができるよう題材を選定しました。</p>	<p>①p.8～21</p> <p>②全般</p>
カリキュラム・マネジメント、短時間学習への対応	<p>①各Partは、<b>Get Ready, Practice, Use</b>という展開を通じて、知識・技能の提示・習熟・活用・定着がスムーズにできるよう配慮しました。</p> <p>②年間で32時間の<b>予備時間</b>を設け、学級の実態に応じた指導ができるよう配慮しました。</p>	全般
教師支援	<p>①Unitの各Partは見開きで2時間という<b>余裕を持たせた時間配当</b>をするなど着実に授業が進められるよう配慮しました。</p> <p>②<b>音声教材や映像などICTを使った教材を充実</b>させ、授業の中で適切に生かせるよう配慮しました。</p>	全般
特別支援教育・ユニバーサルデザイン・SDGsへの対応	<p>①本文には<b>UDフォント</b>をメイン書体として、視認性・可読性を高めました。</p> <p>②誰もが読みやすいように文節で改行をしたり、学習のめあてを明記したりするなど、<b>インクルーシブ教育</b>に配慮しました。</p> <p>③色覚特性や障害のある生徒などにもわかりやすいよう、判別しにくい配色を避けたり、シンプルなイラストを扱ったりするなどの配慮をしました。このことにより、<b>メディア・ユニバーサル・デザイン協会(MUD)</b>による認証を申請しています。</p> <p>④<b>デジタル教科書や拡大教科書</b>を用意し、生徒の様々な学習形態に対応できるように配慮しました。</p>	全般
人権、福祉、国際理解・異文化理解、ジェンダーへの配慮	<p>①外国の様々な話題を取り上げて、自分の国との違いや共通点などに気づかせるなど、<b>国際理解・異文化理解</b>を深められるようにしました。</p> <p>②教科書には多くの人種・民族の人々を登場させています。</p> <p>③女性は赤色・男性は青色といった固定観念で性の区別をしない、男女の社会的役割を平等にするなど、<b>ジェンダーへの配慮</b>をしました。</p>	<p>①p.74～79など</p> <p>②③全般</p>
ICTの活用	<p>①音声や動画などデジタル教材を使って繰り返し学習が有効な箇所には、<b>QRコード</b>を明示しました。また、QRコード対応機器以外でもデジタル教材を活用できるように、「この教科書の使い方」のページにURLを掲載しました。</p> <p>②<b>音声を用いた教材</b>を随所に設定し、臨場感を持って<b>対話的な学習</b>が進められるようにしました。</p>	全般
家庭学習・自学自習への対応	<p>①Unitの初めには<b>Unitの目標</b>を、Partの初めには<b>Partの目標</b>を明示し、生徒自らが<b>見通しを立てたり、振り返ったり</b>できるようにしました。</p> <p>②<b>Practice</b>や<b>Use</b>では、<b>例を提示して生徒が主体的に学習を進められる</b>ようにしました。</p> <p>③紙面に適宜QRコード・URLを掲載して、<b>家庭でも音声を使って学習</b>ができるよう配慮しました。</p>	全般
基礎・基本の定着	<p>①教科書紙面に<b>Target</b>として、<b>キーとなる表現を明示し、知識・技能の習熟・活用・定着</b>を図りやすくしました。</p> <p>②欄外の<b>Words</b>には、特に中学校までで身に付けておきたい<b>CEFR-JのA1レベル</b>の新出語を太字で示しました。</p> <p>③Unit 4, 8, 10末に設定した<b>Let's Listen</b>では、身近な場面から必要な情報を聞き取り、適切に判断し活用できる力を養えるようにしました。</p> <p>④巻末の<b>Can-Doリスト</b>で学習事項を振り返り、基礎・基本の定着を図ることができます。</p> <p>⑤生徒が巻末の<b>Word Box</b>などを参考にして行う言語活動を通して、基礎・基本の定着を図れるようにしました。</p>	<p>①各PartのTarget</p> <p>②p.22など</p> <p>③p.51, 89, 113</p> <p>④p.150</p> <p>⑤p.132～139</p>
家庭や地域との連携	<p>①家の仕事の分担や家族の紹介などを取り上げ、生徒が<b>家庭における役割</b>について意識できるようにしました。</p> <p>②地域を代表するゆるキャラを取り上げ、生徒が自分の住む<b>地域についても意識</b>できるようにしました。</p>	<p>①p.69 Useなど</p> <p>②p.61 Practice, Useなど</p>

観点	留意点	該当箇所
オールイングリッシュへの配慮	①Classroom Englishを使って授業を進めやすい題材を扱いました。 ②Let's Talkでは、即興的なやり取りを促せる題材を設定しました。 ③QRコードやデジタル教科書などを使って、ネイティブによる英語の音声での指導ができるように配慮しました。	全般
文字・印刷・用紙・製本	①すべての人が識別しやすいUDフォントを使用しました。 ②行間にゆとりを持たせ、文章が読みやすくなるように配慮しました。 ③大きな判型(AB判)を採用してイラストや写真を効果的に掲載することで、学習効果が上がるよう配慮しました。 ④針金を使わず堅牢な「あじろ綴じ」製本を採用し、ページを大きく開けるよう配慮しました。 ⑤書き込みやすく消しやすい軽量で丈夫な用紙を採用しました。 ⑥アレルギーや環境に配慮し、植物油インキ・再生紙を使用しました。	全般

## 2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数	3学 期制	2学 期制
0. Let's Start	(1)アウエ, (2)アイ, (3)①アイエオ, ②アイ	p.8~21	7	1学 期制 (38時間)	前期 (55時間)
1. 英語で話そう	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.22~27	4		
2. 学校で	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.28~35	8		
3. 海外からの転校生	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエカ, ②アイ	p.36~43	8		
4. 美術館で	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエカ, ②アイ	p.44~52	9		
<b>Project 1</b> 自己紹介をしよう	(1)イウエ, (2)アイウ, (3)①アウエオカ, ②アイ	p.53~55	2	2学 期制 (37時間)	後期 (48時間)
5. エミリーの家で	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.56~65	9		
6. ぼくのおじいさん	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.66~73	8		
7. アメリカの学校	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエカ, ②アイ	p.74~81	8		
8. ベル先生の買い物	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエカ, ②アイ	p.82~90	9		
<b>Project 2</b> 友だちにインタビューしよう	(1)イウエ, (2)アイウ, (3)①アウエオカ, ②アイ	p.91~93	3	3学 期制 (28時間)	
9. 冬休みの思い出	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.94~103	10		
10. 日本のマンガ文化	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエカ, ②アイ	p.104~114	11		
<b>Project 3</b> 日記を書こう	(1)イウエ, (2)アイウ, (3)①アウエオカ, ②アイ	p.115~117	3		
<b>Let's Read 1</b> The Crow and the Pitcher	(1)アイウエ, (2)アイ, (3)①アウ, ②アイ	p.118~119	2		
<b>Let's Read 2</b> River Crossing Puzzle	(1)アイウエ, (2)アイ, (3)①アウ, ②アイ	p.120~121	2		

年間配当時数 103時間(予備時間37時間)